



戦略的創造研究推進事業「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」領域（研究総括：原島博）では、2010年5月1日（土）～5日（水）まで東京・お台場の日本科学未来館（館長：毛利衛）にてデジタルメディア作品の発表「予感研究所3—アート+テクノロジー+エンタテインメント=?! あなたの予感⇄研究者の予感」を開催いたします。

【開催概要】

会期：2010年5月1日〔土〕～5日〔水〕 会場：日本科学未来館（東京・お台場） 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6
開館時間：10：00～18：00 入場料：無料（ただし、常設展示および特別企画展は別料金となります）
主催：独立行政法人 科学技術振興機構「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」研究領域
共催：日本科学未来館
問い合わせ先：「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」研究領域 TEL 03—5805—1081
WEBサイト：<http://www.media.jst.go.jp/>

報道関係者取材等問い合わせ： press@media.jst.go.jp（担当 大西）

「こんなことができたらなあ」、「こんなものがあったら楽しいのに・・・」映画やゲーム、携帯電話などで、少し前だったらあり得なかったサービスが、日々増えています。日常の中でだんだん当たり前になってしまう技術や表現は、じつは、技術者たちが開発した小さな技術の積み重ねと、芸術家たちの人の心や行動についてのさまざまな考察や実験が組み合わさって実現したものです。予感研究所（以下、予感研）では、さらに次の世代の、まったく新しい道具や方法を生み出すために、芸術や技術の分野の研究者たちが基礎研究を続けています。そんな、未来を創る予感研の研究を通して、たくさんの方々に想像力が刺激されるような体験や“わくわく”や“フムフム”を共有する楽しさを体感いただければと思います。

【各ゾーンについて】今回、予感研究所3では、「学ぶ」「記録」「発見」のサイクルを体感できるよう7つのゾーンに分け構成します。研究者だけでなく、来場者の予感も表現できるしかけを用意し、そこから次の予感が生まれていきます。

■ 予感なりきり研究室



自分の体を使って何かに「なりきる」研究室。例えば、オーケストラの指揮者やカメラマン、ダンサー、そしてジャワの影絵まで、自分ではない何かになりきることによって、新しい発見を促します。

← こちら江東区日本科学未来館内カメラマン育成所（略称：こちカメ）
井上敬介 北村一博 神屋良多 増川照道 和田大輝 一刈良介 田村秀行
実写映像にCGを実時間で合成することができる複合現実感技術を用いると、何も無い模型の上にCGキャラクターが表示され、それを撮影することでカメラマンの体験が可能です。

■ 予感かんかく研究室



手の感覚や感触を不思議な方法で体験する研究室。指先の感触から想像する世界やコンピュータを通して触れるものなど、いつもは意識しない五感をフル活用して体験できる装置や実験などが揃っています。

← Pen De Touch / 家室証 南澤孝太 館暉
ペン型の触覚ディスプレイ。コンピューターの画面の中のいろいろなものに、ペンを通して触ることができます。

■ 予感まんぷく研究室



料理を作る過程をシミュレートして遊べる装置や、食事の画像をとることで栄養バランスの解析から健康管理までできる便利なログシステムなど私たちの生活にかかせない「食」に関する研究室。

← 体験型料理シミュレータ / 加藤史洋 グエン ゴク トウ 須佐育弥 花岡優介 三武裕玄 青木孝文 高瀬裕 長谷川晶一
食材内部の温度や焼け具合など、調理状態を確認しながら、フライパンを振ったり、食材を裏返ししたりできるバーチャル料理シミュレーター。

■ 予感ひょうげん研究室



未来のひょうげんが生まれる研究室。触ることで反応する未来のゲームキャラクターや3次元カメラで取得した物体の形を空間に描き出す装置など次世代のコミュニケーションや表現のヒントがあふれた展示です。

← MovTouch / 有田翔悟
誰でも手軽に“VJ”気分を味わえるソフト。iPod Touchをグリグリなぞって、ブルブル振って、自分好みに動画を演出できます。

■ 予感ウォール／予感マップ (Post-Visit-Map)

ここは予感研3で起こる様々な出来事が記録される鏡。記録を読み解くことによって来場者と研究者のやりとりやワークショップの過程を追体験したり、皆の予感を一望／共有することができます。

■ 予感ラウンジ

これまでの予感研の資料や映像が見られる休憩&交流スペース。研究者たちが自分自身の予感について掘り下げる、一風変わったプレゼンも毎日開催する予定です。

予感研究所とは：

予感研究所の開催は、2006年5月、2008年7月に続き3回目となります。
 科学者とアーティストによる異例のコラボレーションは、東京大学名誉教授(工学博士)の原島博研究総括による「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」プロジェクトのもとで研究が続けられてきました。科学とアートの分野を超えて研究・意見交換をしてきた成果を発表いたします。デジタル技術を使った映画、アニメーション、音楽、ゲームなどのメディア芸術において、作品の制作を支援する新しい手法や表現するための基盤技術を創出することがこのプロジェクトの狙いで、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が戦略的創造研究推進事業として進めているものです。



予感研究所1

会期：2006年5月3日～7日
 来場者：19,620人



予感研究所2

会期：2008年7月26日～30日
 来場者：約12,000人



前回展の様子

主な参加研究者：

CREST「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」岩田洋夫（筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授）、片寄晴弘（関西学院大学理工学部 教授）、田村秀行（立命館大学情報理工学部 教授）、松原仁（公立はこだて未来大学システム情報科学部 教授）、斎藤英雄（慶應義塾大学理工学部 教授）、須永剛司（多摩美術大学情報デザイン学科 教授）、渡辺富夫（岡山県立大学情報工学部 教授）、橋本典久（武蔵野美術大学映像学科 非常勤講師）、長谷川晶一（電気通信大学電気通信学部 准教授）ほか CREST「共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築」相澤清晴（東京大学大学院情報学環 教授）、小池康晴（東京工業大学精密工学研究所 教授）、館暲（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授）ほか ERATO「合原複雑数理モデルプロジェクト」合原一幸（東京大学生産技術研究所 教授）ほか ERATO「五十嵐デザインインタフェースプロジェクト」五十嵐健夫（東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授）ほか

報道関係者取材、画像等のお問い合わせ

「デジタルメディア作品の制作を支援する基盤技術」研究領域

〒113-0033 東京都文京区本郷4-2-8 フローラビル6F

tel: 03-5805-1081 fax: 03-5805-1080 press@media.jst.go.jp (担当 大西)